

提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 体育部会

1 提案テーマ 『ボールを持たないときの動きの向上を目指して～「スリーサークルボールゲーム」を通じて～』

2 単元(題材) ボール運動 ゴール型【ハンドボール】

3 学年 第4学年

4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

①学習目標と学習内容をより明確にした系統性のある指導と評価の工夫

5 学習指導要領との関連

第2章 第9節 体育 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕 2 内容 E ゲーム

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。

(2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたることができるようにする。

6 実践に向けての課題意識

本学級は、明るく活発な児童が多く、休み時間には積極的に外で遊ぶ姿が見られる。反面、集団の一員としての意識に課題があり、自己中心的な行動をしたり、仲間の意見を尊重できなかつたりすることがある。そこで、本学級の全児童を対象に「体育アンケート」を実施し、「ボール運動で楽しい時」を調査したところ、「点を決めた時」「ボールを投げた時」「ドリブルをしている時」など32人全員がボールを直接扱っている場面を挙げた。反対に、「ボール運動でつまらない時」については、「パスが回ってこない時」や「ボールに触れず、活躍できない時」などの回答が多く、ボールを持たない場面を挙げた。これらのアンケート結果を受け、以下の5つの願いを課題意識としてもち、実践を行った。①ボールを持たないときの動きを高めるとともに、その動きを楽しませたい。②「ゲーム-発問-練習-ゲーム」の流れを大切にする。③フットワークを身に付けさせたい。④動きの中でボールをキャッチし、正確なパスが出せるようにさせたい。⑤仲間同士での声掛けやアドバイスなどを通して、絆を深めたい。

7 実践の概要

- ① 児童の実態に合った「技能」「態度」「思考・判断」の指導内容を整理し、これらをバランスよく身に付けさせるための単元計画を作成する。
- ② 指導内容を確実に身に付けさせるための指導方法、教材、教具を工夫する。
 - ・「ゲーム-発問-練習-ゲーム」の流れを意識し、児童の戦術的気づきとゲームパフォーマンスの向上を図る。
 - ・「スリーサークルボールゲーム」を通して、「ボールを持たないときの動き」を高める。
- ③ 体育における社会的行動を高めるための活動を仕組む。

8 成果と課題

児童がボールを持たないときの動きを高めるという目的を意識して、意欲的に動いていた。

目的達成の手立てとして取り入れた「スリーサークルボールゲーム」は、児童の動きが飛躍的に向上し、身につけた動きがその後の「メインゲーム」でも発揮されたので大変有効であった。さらに、技能面だけでなく、児童同士の声かけやアドバイスをする姿など、児童が互いに高め合う姿が見られた。

今後の課題は、他のゴール型ゲームにおいても「スリーサークルボールゲーム」などの制限付きのゲームを取り入れ、「ボールを持たないときの動き」を高める指導法の研究を深めることである。

9 予想される協議の柱

- ・ボールを持たないときの動きを高めるための学習指導の在り方